

(個人)

(報告 田中)

五竜岳 標高 2,814m

【日時】 24年 8月5日～6日 (日・月)

【メンバー】

田中

(計 1 名)

【行動記録】

①大宮(2時)ー豊科IC(5時18分)ーアルプス平(7時37分)⇒小遠見山(9時3分)⇒五竜山荘(12時39分)ー②5時37分)⇒五竜岳(6時時35分)⇒五竜山荘(7時35分)⇒小遠見山(10時17分)⇒アルプ

概略図

五竜岳

↑↓

五竜山荘

↑↓

西遠見山

↑↓

小遠見山

↑↓

アルプス平

ス平(11時14分)ー長野ICー東松山ICー大宮

1日目 4時間38分 2日目 4時間54分

【装備・食料等】《個人》携帯電話、ヘッドランプ、雨具、コンパス、地図、救急薬、食事2食、水、行動食

【感想】

台風11号の影響で大気が不安定な状態での出発となった。テレキャビンとおみ駅は日差しが一杯であったが、山頂は雲が懸かっていた。小遠見山から五竜岳の展望もガスに遮られて何も見えなかった。時々ガスが切れて、青空が見えたこともあったが、五竜山荘までこんな状態だった。ただ、シナノキンバイ、ミヤマアズマギク、シモツケソウ等花が豊富なのが、重くなってきた足を先に進めてくれた。山荘の前の木のテーブルに座りビールの飲みながら、同席となったハイカーと山の話に花を咲かせたが、目の前の五竜岳は山頂が雲に隠れたままだった。明日は、曇り、霧、雨、雷雨の予報という。夕方から陽が出てきたが、翌朝の天気賭けた。2日目の朝は、高曇りで昨日見えなかった周辺の山々が姿を現していた。早い朝食を取って、山頂を目指した。雪を抱いた剣岳、立山が並んで見えた。鹿島槍も隣に位置している。遠く妙高、火打が雲海の上にシルエットとなって浮かんでいる。展望を楽しんだあとは、雨がやってくる前にアルプス平まで下るよう先を急いだ。